

平泉寺白山神社

福井県勝山市平泉寺町平泉寺



福井県にある平泉寺白山神社は、
うっそうとした杉の大木と、美しい苔で有名です
菩提林(ぼだいばやし)から続く参道は、その昔修行僧たちが
九頭竜川の河原から、手で運び上げられたと言われる石畳で
「日本の道百選」に選ばれています。

平泉寺白山神社は、養老年間(西暦720年頃)、
泰澄(たいちょう)大師が創建した古社で、平泉寺はその別当寺、
白山三馬場(越前・加賀・美濃)の一つでもあります。

中世以降、比叡山延暦寺の勢力下に入り、
靈応山平泉寺として知られるようになります。

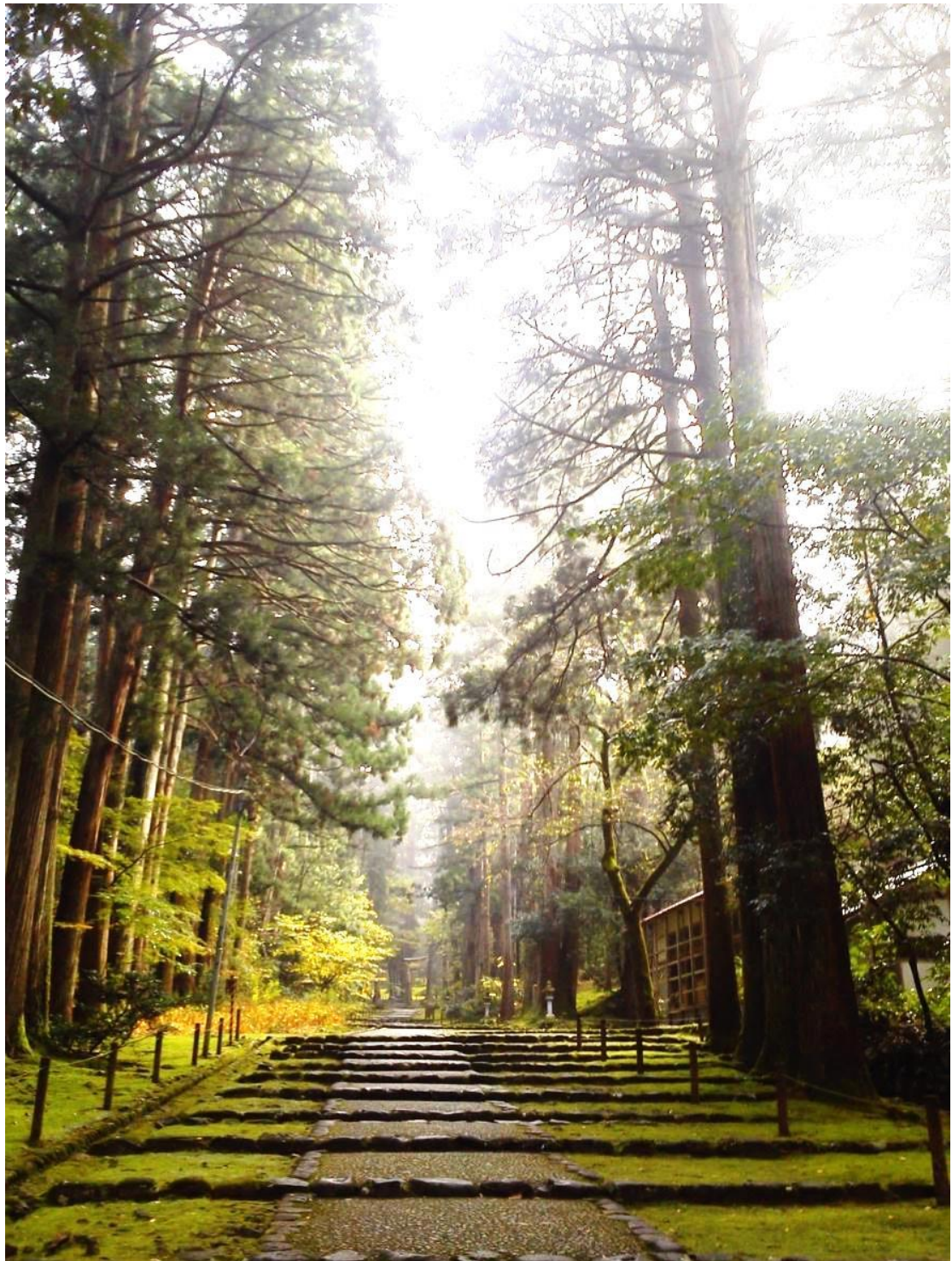
白山信仰の、越前側の禅定道の拠点(越前馬場)として、
最盛期には、9万石の寺領と、48社・36堂・6千坊を構える程になり
政治的・兵力的に黄金時代を迎えますが
一向一揆により壊滅しました。

その後、豊臣秀吉などの崇敬を受けて顕海が復興し、
江戸時代には、福井藩・越前勝山藩から寄進を受けます。
寛政8年(1688年)、白山山頂が平泉寺領と定められ、
白山頂上本社の祭祀権を獲得しました。(現在は白山比咩神社に移行)
明治時代の神仏分離により白山神社だけが残り、
現在に至っているとの事です。

白山比咩神社(石川県)は、
自宅近くにあるため、頻繁に訪れることが出来ますが
この平泉寺白山神社には、ずっと「参拝したい！」と思いながらも
なかなか、チャンスがありませんでした
偶然は存在しない、といわれます
来るべき時に、呼ばれるようにしてやって来る…
それは真実かもしれない、と確かに感じる、貴重な経験でもありました^^

泰澄大師によってひらかれた、白山三馬場の一つであり
どちらかという、歴史の重みを感じる、暗い感じのところ。。。?
という、勝手なイメージがあったのですが、
来てみて、驚きました
すごく、透明感があって、清々しい！
かつ、荘厳な雰囲気、素晴らしい聖地でした^^

第一印象は、“真っ白！”
前日の雨で境内は清められ、空気が澄みきっています
本殿へと続く坂道に、とてつもないスケールを感じます
ただ単に壮大、というだけでなく
何かが一丸となって、前へ前へと雄々しく進んできた、力強さのような…
いくつもの川が合流して勢いを増す、大河のような…
“勇壮！”という言葉がピッタリ！で、胸が大きく高鳴ります^^



先人はこの石段を、どんな思いで登っていたのでしょうか。。。

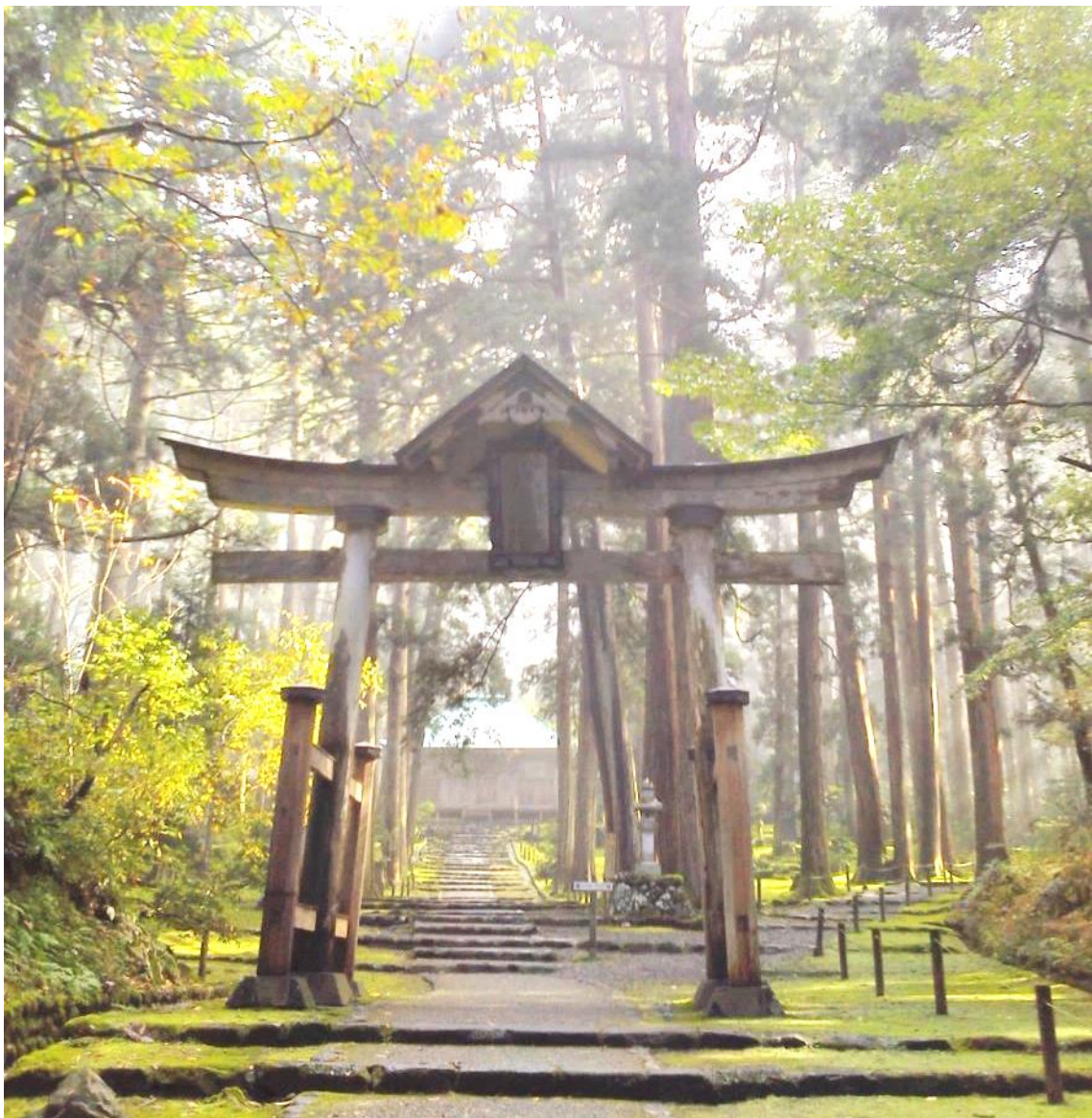
その思いが、一気に私の胸になだれ込み

涙がこぼれ落ちそうなほど、熱い思いが込み上げてきます

全てが準備されている…、来るべき所へ来てしまった——

説明の出来ない不思議な感覚にとらわれ

まるで感謝と喜びに、足が生えて、歩いているようです？！

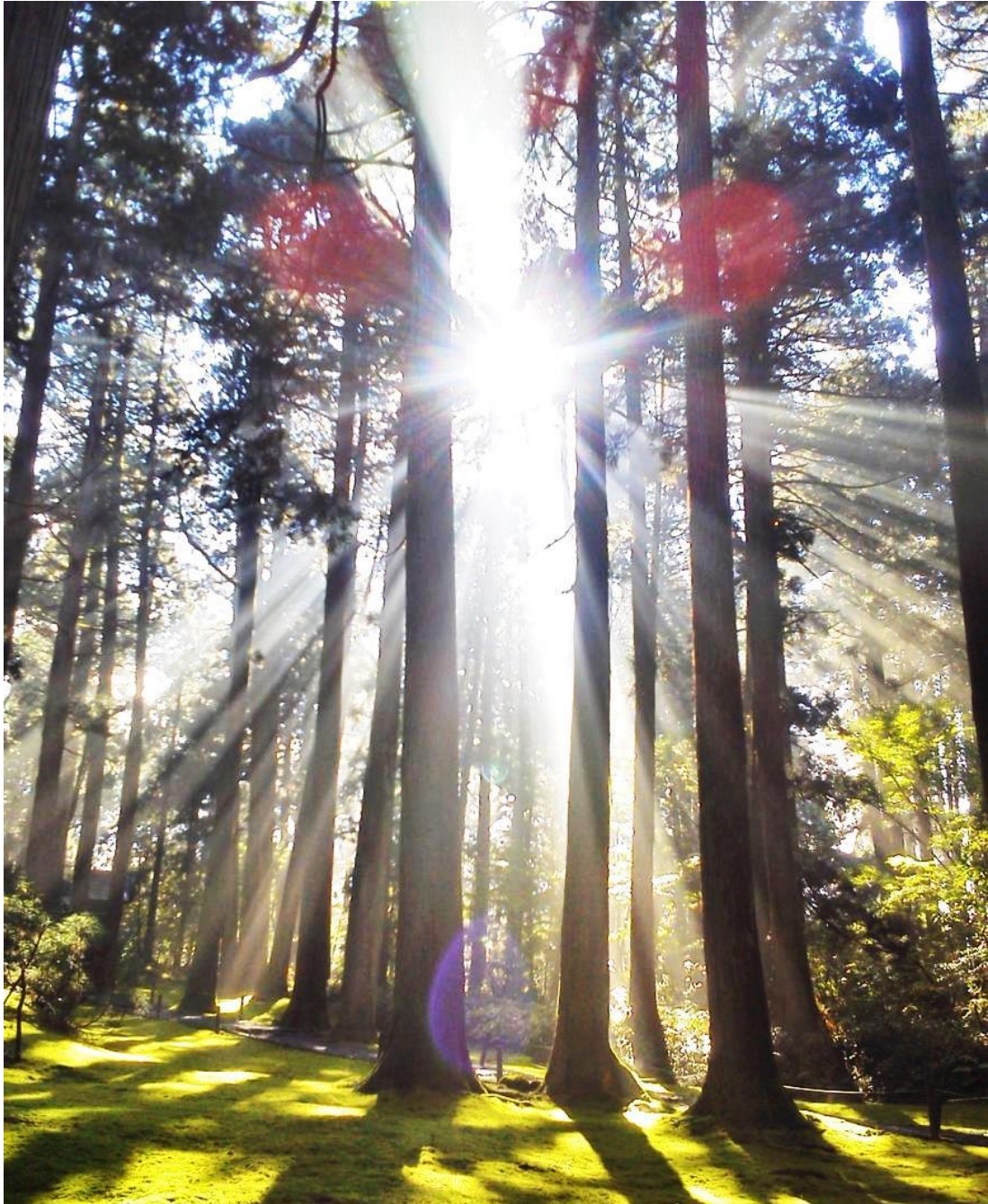


「白山三所大権現」と書かれた、屋根付の珍しい鳥居
両部鳥居と言われる、神仏習合の名残を示す形であるようです

眩しい！！

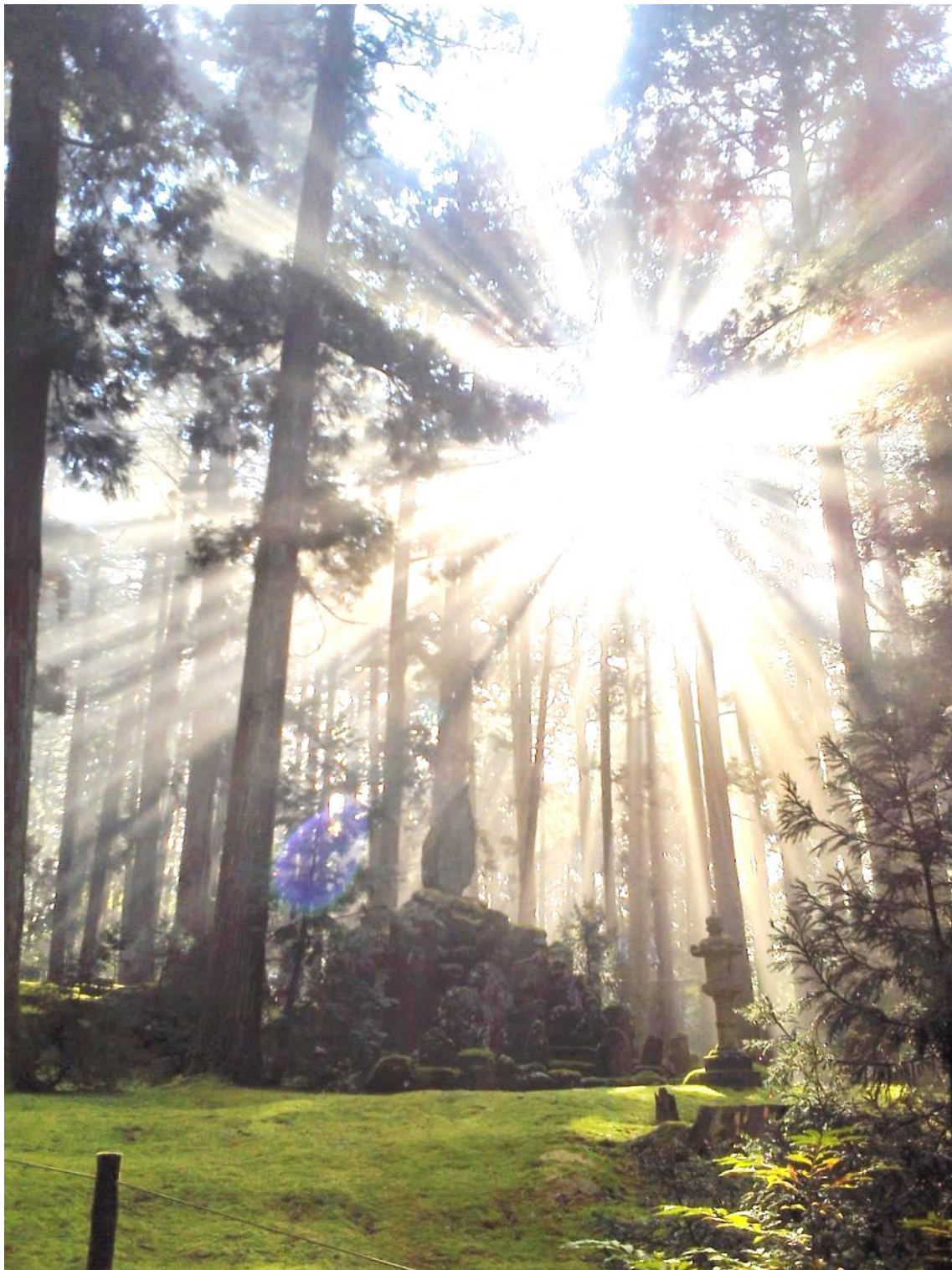


美しい…

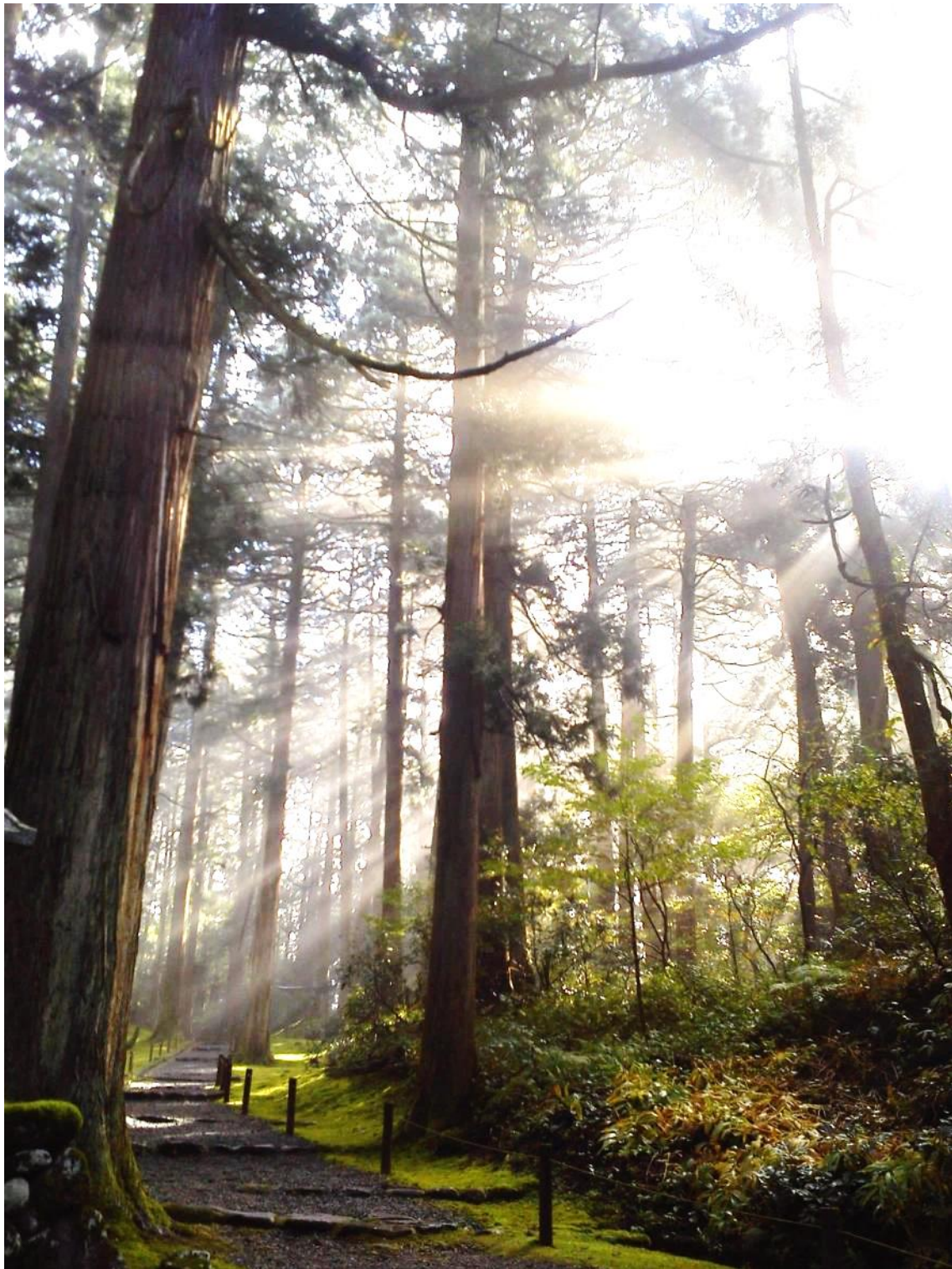


神が光の精となって
森の散歩を楽しんでいるかのようです (ジブリの世界?)

映画の中でしか見た事のなかった、夢のような世界が、
目の前に広がっています



太陽はいつでも空にあり

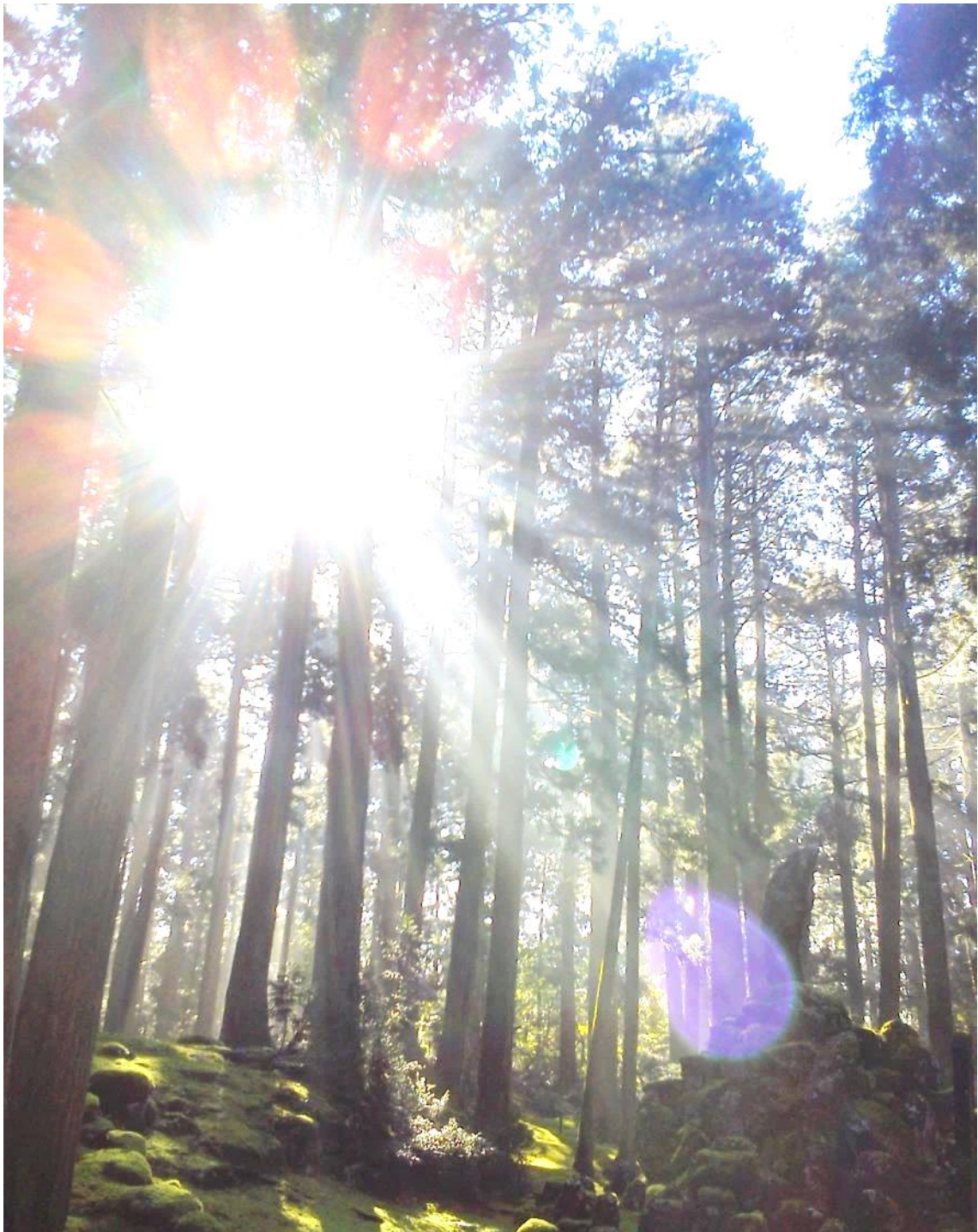


無限の光を放っている



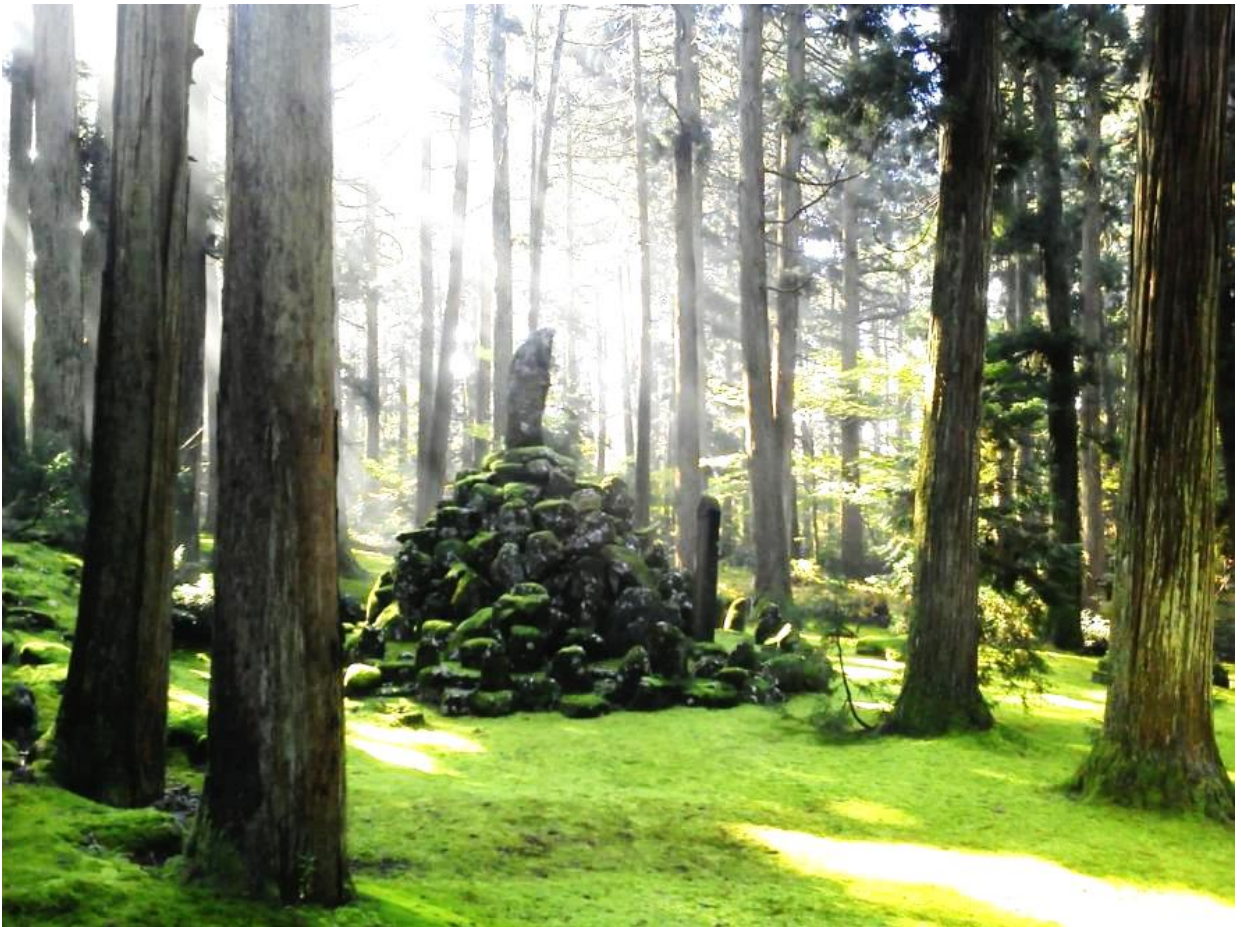
ここで見た光が、
これほどまでに鮮明で、美しいのは何故なのか？
あらためて写真を見ながら考えていました

この場が、究極のクリスタルであるからだ…
太陽と自然が織りなす、美と豊かさのすべてを、
そのまま、写し出しているだけなのだ。。



真っ白な太陽からは、様々な色が、生まれます
その一つ一つの色が、
私達が“美”、“安らぎ”、“喜び”、“希望”と表現する心の色

“内なる太陽”＝“魂”（神の分御魂）の分光であり
すべてが満ち足り、∞に溢れ出す
“根源の太陽”との共鳴によって、外側に現れ出た光景
と言えるのではないのでしょうか



“神聖”であるとは
神は光であり、それ以外には何も存在していない、と思う事かもしれません
根源の光（太陽）は、私達の魂の故郷であり、そこへと帰っていくことが
“永遠の幸せ”への道ではないのでしょうか
(*^^*)



本殿に到着しました

特別に何も感じない…というのが、私の正直な気持ちで、
その理由として思う事は
ここに来るまでに、もう出逢っていたから。。。見えていたから。。。
なのかもしれません^^

御祭神は 伊奘冊尊

本殿右の別山社に、天忍穂耳尊
左の越南知社に、大己貴尊(大国主命)が祀られています

時間は10時前でしたが

ここに上がって来るまで、誰一人出会う事なく
ただ、光だけがある、時間と空間を忘れた一時でした^^

本殿へ昇る途中に、美しい泉があります



手前左手に聳える三又杉は
泰澄大師が植えたものと言われ
樹齢 1200 年を経て、今尚顕在との事
幹の途中から三本に別れている
珍しい光景で
三位一体の“白山三山”を物語る
まさに、御神木なのだと思います^^

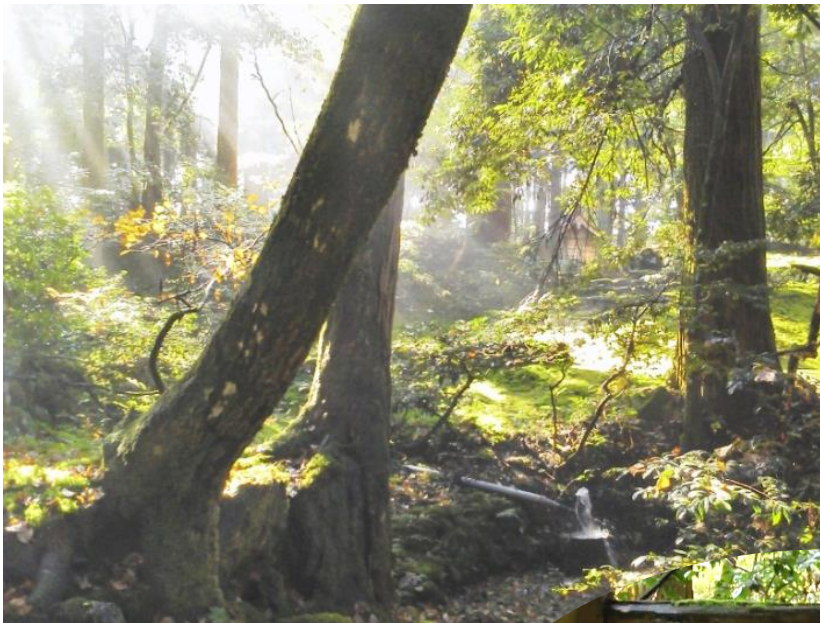


この写真はネットよりお借りしました



“クリスタル”

← “神聖”



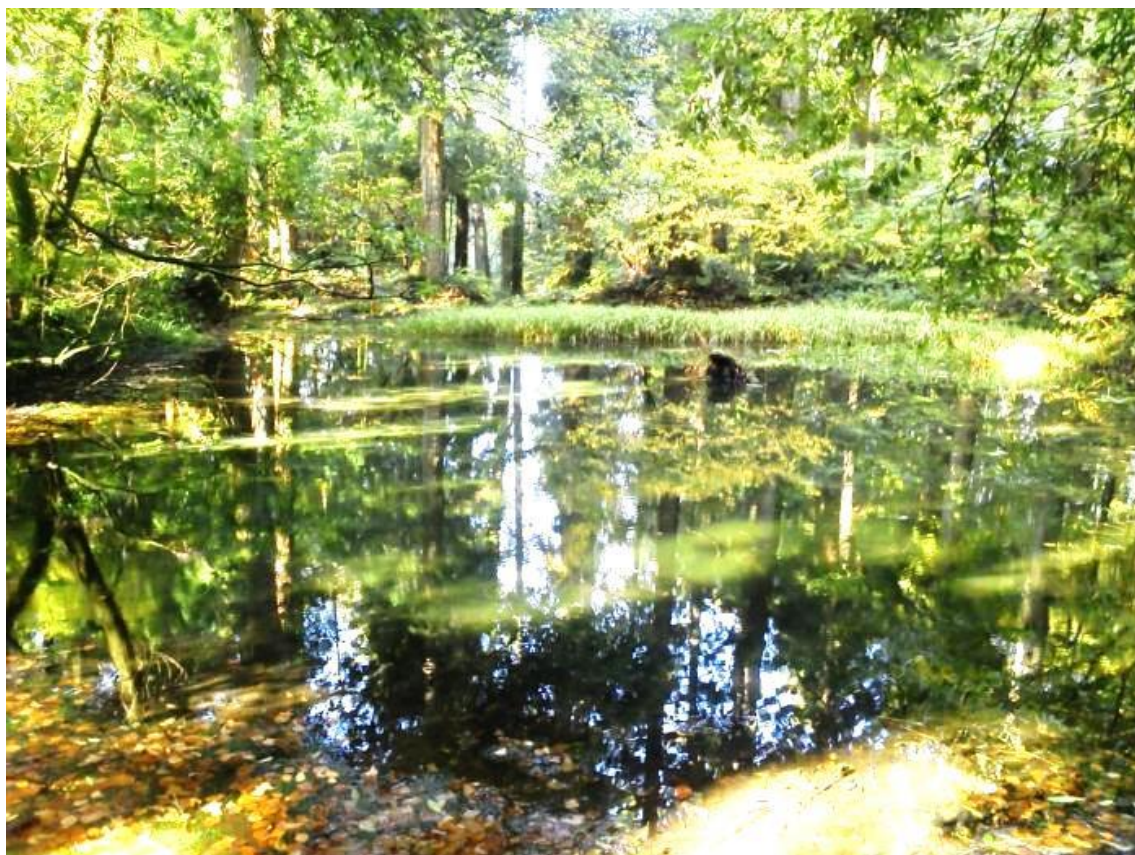
この日、
平泉寺の所々に感じた
二つの要素、特徴であり
太陽の恵みが最大限に活かされた
地上の楽園にいたのだと思います^^



泰澄大師は、養老元年(717年)、白山登拝の途中で、
この林泉を発見し、大師の祈念に応じて、泉の中の影向石に、
白山の大神が出現されたとの事です
「神明遊止の地なり」とのお告げにより、この地に社を建て
白山の神を奉斎されたと伝えられる
“平泉寺”という名前の由来となった、大切な場所のようです

泉は、天と地をつなぐ、無数の光の柱で出来ていて
澄み渡る湖面は、まさに七変化…、様々な色の光の饗宴をみるようです
(*^^*)

まるで、底なしの宝石箱を覗いていたかのような、一日でした。



2011. 11. 12 感謝 ルミネス